



2つのベゴニア、その使い方

たかがベゴセン、されどベゴセン

ベーシック品で扱われることが多いベゴニアセンパフローレンス。

- 一般品化しすぎて高く売れない
- 比較的高温が必要
- 播種から出荷まで意外と時間がかかる

など、販売側にとっても生産側にとってもコストに見合った価値を伝えられているでしょうか？

このジレンマを解決する全く異なるアプローチのご提案です。

手元にお金を残すには？

1. 同じコストで作って、高く売る
2. 生産コストを抑えて、同じ値段で売る
3. たくさん作って、たくさん売る

マーケットが厳しいと言う中、「3」の選択肢は大掛かりな仕掛けが必要ですし、業界を挙げて行う必要があります。

「1」のトップハット、「2」のトップスピンが解決のお手伝いをします。

大輪、暑さに強いトップハット*

*トップハットはハイブリッドベゴニアに分類されています。

トップハットの2大特徴

- ・花が大きい
- ・暑さに強い

予想をはるかに上回る需要で人気急上昇中です。

とにかく大きい



*FSブルーム成田シードセンター調べ

国内試験*で8cmを記録。その存在感者他を寄せ付けません。

暑さに強い



撮影：2019年8月2日
成田シードセンター

耐暑性、特に強日射下におけるパフォーマンスが良く、
植栽関係者から注目されています。

そして豪華



成田シードセンター来場者から
最も注目を集める商品の一つです。

トップハット

- ✓ 花が大きい
- ✓ 暑さに強い
- ✓ 高価格帯を狙える

低温栽培可能なトッブスピン

トッブスピンの特徴

比較的低温でも栽培可能

海外では12°C程度でも栽培可能とされていますが、国内では夜間温度5°Cでも生育することが確かめられています。
(成田シードセンター調べ)

マーケットが厳しい中、あるいは厳しいからこそ？
2019/20シーズン急激な需要の伸びが見られました。

低温栽培下のトップスピンの



撮影：2019年4月19日成田シードセンター

最低5°Cで栽培しても十分に生育します。

手元にお金を残すには？

1. トップハットで高く売る
2. トップスピンで生産コストを抑える
3. 「1」、「2」の組み合わせでマーケットを広げる。

儲けるコツは品種選びから。